

第29回地方独立行政法人鳥取県産業技術センター評価委員会議事録概要

1 日時 平成27年3月9日(月)午後3時～午後6時

2 場所 鳥取県庁第21会議室(第2庁舎9階)

3 出席者 別紙出席者名簿のとおり

4 概要

(1) 第3期中期目標について

ア 審議結果

資料1, 2について事務局から説明。

イ 評価委員の主な意見

- ・とっとりフードバレーとは具体的にどのようなもので、何を目指すのか。言葉や予算だけで、実態が伴わないことにならないように。海外輸出よりも国内の市場開拓が優先ではないか。
 - 農産品や加工食品の海外輸出を目的に、県内で弱い加工部門の振興を目指すもの。今年度プロジェクトチームが立ち上がり、今はコンセプト固めの段階である。
- ・H27予算で新規に利用料減免補助金を実施する理由は何か。決して利用料は高くないと思うが。
 - 発端は県議会からの質問と昨年の小規模企業振興基本法の成立を受け、小規模事業者にも光を当てて支援しようという国全体の動きに合わせたもの。

(2) 第3期中期計画について

ア 審議内容

資料3～5に基づき、産業技術センター(村江理事長、山田室長)から説明。

イ 評価委員の主な意見・質疑

- 「連携」の具体的な中身が見えない。企業側からみれば、産業技術センターも産業振興機構も、県と一体である。個々の企業に足りない部分を補ってくれることを期待している。
- ウェアラブル基盤技術は、すでに県内にあるのか、それともこれから生み出すのか。鳥取県は人材も財政も豊かではなく、新しいことに飛びついて、果たして成果がでるのか。
- 機能性評価は、ヒトを使った臨床試験が必須。それがない機能性評価は中途半端で、結果(お金)にもつながらない。
- センターが企業訪問で得た情報は貴重なビッグデータ。しっかり分析した上で、県内企業の技術課題を把握すべき。
- 中期計画の数値目標を7項目から4項目に減らして、これで質的な評価ができるのか疑問。
- 全体として網羅的であり、重点項目や3研究所が具体的に何をするのか見えてこない。
- 第3期の数値目標は、実績より少し上げた数値になっているが、どのような根拠で設定したのか。
 - 単純平均ではない。中身を重視して個別に設定した。

ウ 意見集約

評価委員会として、別途4年分の具体的な年次計画、到達目標が示されるべき、との意見が示された。